

こども松代見て歩き



城下町松代の

今

と

むかし



はじめに

こんにちは！

みんなは松代のまちについてどんなことを知っていますか？

住む人によって町が分かれていたことは知っているかな？

このブックレットでは、城下町松代の今と昔とのちがいやそのまま残っているスポットを、楽しく紹介しているよ。

松代の歴史を学ぶ私たちが実際に歩いて調査して、みんなに「見てもらいたい」「知ってもらいたい」と思うスポットを取り上げているので、このブックレットを持って町を探検してみてね♪

松代文化財ボランティアの会



離山の調査



木戸の場所の調査



荒神堂の調査



旧前島家住宅の調査



もくじ

はじめに	1, 2ページ
城下町松代の広がり	3, 4ページ
変わらない！！松代町	5, 6ページ
武士の町	7, 8ページ
武士の町見どころスポット	9～12ページ
コラム「城下町松代の火の用心」	13, 14ページ
町人の町	15, 16ページ
町人の町見どころスポット	17～20ページ
コラム「町人の町の、こどもたちが楽しんだ縁日と不思議な石」	21, 22ページ
松代の今昔マップ	23, 24ページ
アクセス案内	25, 26ページ

※このブックレットに出てくる、町名の読みは『長野県町村名大鑑』や松代地域の方々のお話を、絵図は『信濃の民家』を参考にしました。

城下町松代の広がり

まつしろじょう せんごく たけだしんげん きず かいづじょう
 松代城は、戦国時代に武田信玄によって築かれた海津城がそのは
 じまりとされ、松代は江戸時代には真田十萬石の城下町として栄え
 ました。北に千曲川、東・西・南を山に囲まれた地に、城を中心に
 武士と町人が住む場所が分けられ、町人は主に街道沿いに住みまし
 た。

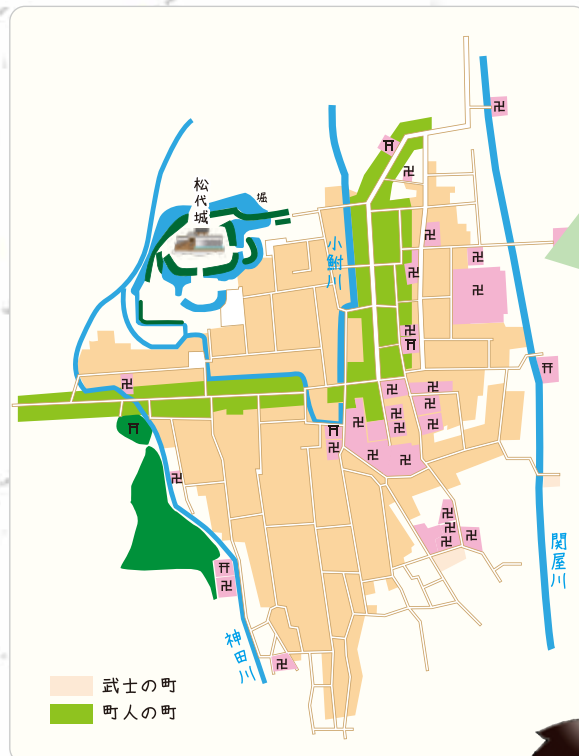
はじめは城下を囲むように土居（惣構）を築き、町を守りました。
 真田信之が上田（今の上田市）から移り、人口が増えると、土居を
 崩して南側に武士の町が広がっていきました。



写真はイメージです

土居は高い
 ところで4m*
 もあったそう
 だよ。

※「松代城下図」
 （元和8年・長野市立博物館蔵）より



江戸時代終わりごろの松代



戦国時代終わりごろの松代

この時代に、山ではなく平らな土
 地にお城を築くのは、この辺りで
 はめずらしいことだったんだよ。



城下町松代の広がり歴史

「松代に城下町ができる前」
 ・東条「西条」「中条」「寺尾」な
 どの集落があった。

「戦国時代」
 甲斐（今の山梨県）の武田軍と越後（今の
 新潟県）の上杉軍との五回にわたる川中島
 の戦いが始まる。

・武田信玄が千曲川沿いに海津城（後
 の松代城）を築き、上杉軍に備える
 （一五六〇）。

・武士のほかに商人も集められ、城
 下町ができる。
 ・町のまわりには土居（惣構）が作ら
 れた。

・お城、武士の町、町人の町がつく
 られ、堀と土居で囲まれた守りの城
 下町松代の原型ができる。

「江戸時代初めごろ」

・街道が整備され、街道沿いに町人
 の町が広がってくる。
 ・真田信之が上田から移り、真田十
 萬石の城下町・松代ができる（一六
 二二）。

・土居の外にも武士の町や町人の町が
 広がっていった。

「江戸時代中ごろ」

・戦がない時代になり、土居も必要
 なくなっていた。
 ・土居を崩し、南に新しい町が広がっ
 ていった。
 ・たび重なる水害対策で、千曲川の水
 路を城から北に離れた。
 ・商業がさかんになり町の人口が増え
 る。

「江戸時代終わりごろ」

明治時代初め
 ・明治時代初めの城下町の人口
 約八〇〇〇人
 ・松代城が廃城になる（一八七二）

「現在」（令和三年）

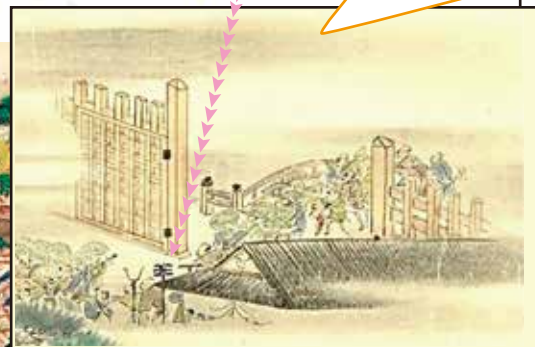
・旧城下町の人口
 約五〇〇〇人

※年表は『長野市誌』『信濃の民家』参照

変わらない!! 松代町

これは300年くらい前の松代の絵図だよ。今も町の道すじは江戸時代とほとんど変わってないよ。町の名前もそのままだよ。

お城に向かう町の境にはこの写真のような大きな木戸きとどがあって、夜は閉められたんだ。
木戸には怪しい人を捕まえる道具あやがそなえられていたよ。見えるかな？
木戸は全部で7か所あったんだよ。
☆詳しくは③④ページ「松代今昔マップ」を見てね。



「寺町」って、お寺が集まっている町だね。
大英寺・本誓寺・證蓮寺などが今もあるよ。

桜が咲いているよ。石垣もあるよ。昔の絵図って楽しいね。
読む字もありそうだよ。

長國寺には殿様たちのお墓があるよ。



文武学校はこのあたり。
真田邸はこのあたり。

ここは松代城。地元の人は今も「海津城」と呼んでるよ。

伊勢町と中町は、町人のお店がたくさんあった町だよ。「天王祭（祇園祭）」っていう町人のお祭りは、殿様も見に来たんだよ。

三村自閑齋筆「松代の図」

江戸時代の絵図を持って探検してみよう。
まだ、いろいろおもしろい場所があるそうだよ。



気がついたかな？
下が北だよ。

真田宝物館はこのあたり。

この絵図は真田宝物館にあるよ。探しに行ってみよう。



武士の町

武士の町の広がり
を学んで、
探検してみよう！



1 真田氏が松代に入る前

海津城(松代城)ができる前は松代の東にあるあまかりやま 尼巖山にあったにいわ 尼巖城の城下町として「御安口・松山町」という武士の住む町がありました。海津城ができると、城を守る土居(惣構)や寺が置かれ、土居(惣構)の内側に「殿町」「田町」などの武士の町ができます。真田氏が松代へ入り、時代が進む中で土居(惣構)の外側にも武士の町が置かれていきました。

御安口・松山町

海津城ができる前からあった、武士の町です。(御安口は後に御安町となる)

殿町・清須町・田町

殿町はお城に近い場所にあり、家老などの上級武士の屋敷がありました。清須町は千曲川の近くに位置していたことからその名が呼ばれています。



松山町



- 武士の町
- 町人の町
- 土居(惣構)

江戸時代中ごろの松代

2 真田が松代にやってきた!

江戸時代初め、真田信之が松代にやってきたころには、城下町の形があるていどできあがっていました。

3 2代目の殿様・信政(信之の子)も松代へ

その後、信政が沼田(今の群馬県)から家臣を連れてやってきたり、信之が隠居先の柴(城下の北にある村)で亡くなり、そこで仕えていた家臣が松代に戻ってくると、城下の南に新しい武士の町が増えていきました。

表柴町・裏柴町

柴から戻ってきた家臣たちの屋敷がありました。



表柴町の片岡家



4 江戸時代の中ごろ

城の北に千曲川が流れていたため、城下南の田畑だった土地が開発され、武士の町が広がりました。そうしてつくられた城下町松代は、江戸時代終わりまで、ほぼ変わりませんでした。

竹山町

近くに竹がたくさん植えられた竹山がありました。竹山とは今の象山のことで



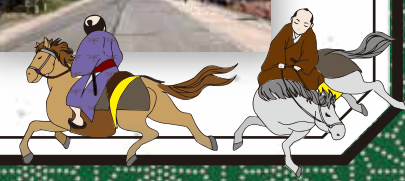
代官町

代官が住んでいました。



馬場町

武士が馬術の練習をする馬場がありました。道が真っすぐで広々としています。



武士の町見どころスポット

どのまち
〈殿町〉

松代文化財ボランティアの会おすすめの、
武士の町の見どころを紹介します。

詳しい場所は②
④ページの「松
代今昔マップ」
を見るのだぞ。



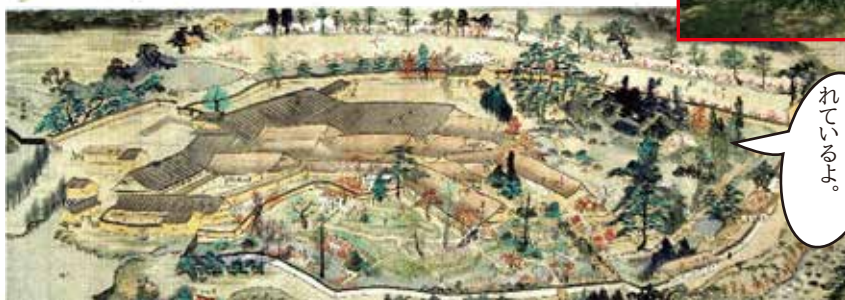
3 恩田木工民親の像

家臣の手本となることと、うそをつか
ないことを心に決めて藩の財政改革を
指導した、松代藩の家老です。恩田
木工は家老という重要な役だったので、
城に近い場所に屋敷がありました。
屋敷のあとに像がたっています。



1 花の丸御殿あと

松代城の本丸の役割をしていた花の丸御殿。御
殿は火事により失われてしまいましたが、御殿の
庭石といわれる大きな石が今も残っています。



8代藩主・真田幸貫筆「曲大直小図」(花の丸御殿を描いた図)

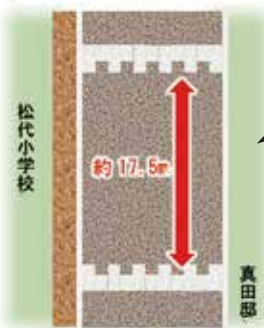
この御殿の庭に
あった石といわ
れているよ。



長岡助治郎筆
「信濃国河内嶋松代城絵図」

2 松代城三の堀あと

石だたみの色でわかるようにしていま
す。江戸時代にはこの幅(約17.5m)
の堀がここにあり、城を守っていました。



上から
見ると...



立派な木
だね!



4 真田邸のエノキとエンジュの木

真田邸の庭に、ひときわ目立つ大き
な2本の木があります。これはエノキ
とエンジュの木。北側がエノキ、南側
がエンジュの木です。どちらも縁起が
良い木として有名であることから植え
られたのかもしれませんが。

武士の町見どころスポット

たけ やまちょう おもてしばちょう た まち
 <竹山町・表柴町・田町>

5 田町の食い違い道路

わざわざ道をずらすことで見通しを悪くし、かんたんにまっすぐ進めないようにして敵の侵入やこうげきを防いでいます。城下町ならではの道路です。



6 竹林と神田川

竹山町の町名の由来となった竹林の近くには神田川が流れています。神田川のすぐそばにある山寺常山邸の池と、その前を流れる水路にはコイが泳いでいます。松代城下の武士の屋敷の庭には池があることが多く、池ではコイが飼われ、食用にすることもあったようです。



↓神田川

山寺常山邸の池↓



表柴町の倉澤家 7 松代藩の試刀会

江戸時代終わりごろ、松代藩では刀の切れ味を試す試験「試刀会」が行われ、刀鍛冶5名の刀が試されました。会場になった武具奉行・金見忠兵衛の屋敷は、表柴町の倉澤家のあたりにありました。



切れ味を試した刀



刀って使うとこんなに刃がこぼれてしまうんだね！

口をパクパクさせて寄ってくるからカワイイなあ！

8 県道長野真田線 (旧関屋川)

町の真ん中を流れていた関屋川は、たび重なる水害のため江戸時代の終わりごろに町の東側に移されました。水の流れる量が少なくなって川として利用されなくなりましたが、令和時代に新しい「県道長野真田線」という道路になりました。



コラム 「城下町松代の火の用心」

江戸時代は木造の建物が多かったので、火事がおきるとたちまち燃え広がってしまいます。城下でも大きな火事が何度もありました。そこで火に弱い建物を守るために、消火のための火消し役※1を備え、おまじないや神様たちにも願かけ※2をしていました。

※1今の消防団のようなもの
※2 神様や仏様に願い事をする事。



「余燼写生図」江戸時代の火事と火消しを描いた絵図



ねこ面はい
ろいろな顔
があるよ！

横田家のねこ面がわら¹！
ねこの顔の形をしたかわらに、水という字や雲がえがかれています。これは火除けとねずみ除けをあらわしています。

真田邸²・旧樋口家住宅³
山寺常山邸⁴・旧白井家表門⁵・赤澤家⁶などにもあるよ。
場所は②③④ページ「松代今昔マップ」の⁷マークを参考にしてね。

表柴町の社

右側には武士の神様である八幡大神、左側には様々な神様と一緒に、火をしずめる神様（秋葉様）が祀られています。

場所は②③④ページ「松代今昔マップ」の⁸マークを参考にしてね。



長國寺本堂のシャチホコ

向かって左側のシャチホコは、松代城大御門のものを移したものと伝わります。シャチは建物が火事になると、口から水を出して火を消してくれると言われる空想の動物です。

場所は②③④ページ「松代今昔マップ」の⁹マークを参考にしてね。

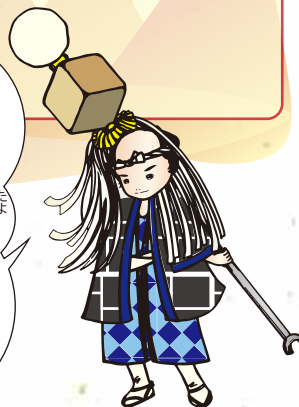
家老の屋敷が火事だ！ 場所は7ページの¹⁰マークを参考にしてね。

江戸時代中ごろ（1764）の11月の早朝、藩の家老・望月治部左衛門の屋敷から火が出ました。町の火消し役が急いでかけつけ消火したため、ほかの家には燃えうつらずにすみました。

火事がおこると、火事現場が関屋川の東側か西側かで、出向く火消しのグループが違いました。江戸時代は火の勢いをしずめるために水を使うのではなく、火元やそのまわりの家をこわして火が他に燃え移らないようにしました。火が消えると、ほっとしただろうね。

※関屋川の東側と西側については、7ページの地図を見てね

神様だけに頼っていられないから、火事の際はオレたちが城下のみんなを守ったよ！



町人の町

職人や商人などが住むエリアは「町人町」と呼ばれ、真田信之が松代へ入ったころには町人の町は8つの町から形づくられていて、「町八町」と呼ばれるようになりました。

< 町八町とは？ >

馬喰町 紙屋町 紺屋町 を上三町、
伊勢町 中町 荒神町 を本町三町、
鍛冶町 肴町 を脇二町

といい、この8つを言います。



馬喰町

荷物の運ばん、武士のための馬の調達などを仕事にした馬喰と呼ばれる人たちが住んでいました。西からの松代城下入口に位置する町です。

紙屋町

松代城（海津城）ができる前からここには紙屋村という村があったといわれ、町八町の中でも古い町です。町名のとおり、紙すき職人が多く住んでいました。



紺屋町

着物や武具などの染め物を職業（紺屋）とする人々が住んでいました。染め物が盛んになると、川の水が汚れ、その水がお城の堀に入ってしまうため、染め物職人は城下東の肴町や鍛冶町に移っていきました。



染物干しの様子「松代付近名勝図会」より

荒神町

荒神堂があったので荒神町と呼ばれるようになりました。町の北東にあり、寺尾や須坂方面への出入口でした。また千曲川通船船着き場があり、越後（今の新潟県）方面から塩や海産物などが運ばれにぎわいました。



大門踊り



高札場



市大神



武士の町
町人の町
土居(惣構)

江戸時代中ごろの松代

伊勢町

まち歩きセンターの向いに伊勢両皇太神宮御旅所があり、その名が残ったと言われています。最もにぎわいのあった商人の町で、八田家、大坂屋などの商人の家が今でも残っています。



伊勢町の様子

※伊勢神宮の神様が休むところ

肴町

真田信之が松代に入る前からあった古い商人の町で、魚問屋や塩問屋などがありました。天王祭（祇園祭）での大門踊りは、もとは肴町に越後国（今の新潟県）から来ていたいわし売りの女の人達が松代城大御門前で踊ったことがそのはじまりと言われています。そのため、今でも大門踊りは肴町が一番先に踊る「御先踊り」をつとめています。「市誌研究ながの」第2号

中町

町名は伊勢町と荒神町の中間にあったことに由来します。伊勢町とならび商業の中心としてにぎわったところ。杭全家（宿屋、荷物の運ばん）、伴家（荷物の運ばん）、島田家など重要な町役人をつとめた家がありました。中町は人々が多く行きかう場所ということで、松代藩が決まりや知らせを掲示した高札場が置かれていました。また、ここには市がたち、市の入口や中心に市大神という市の神様を祀りました。（今では矢印の中町公民館の前に移されています。）

鍛冶町

刀鍛冶や鉄砲鍛冶などの鍛冶職人が住んでいたことからその名がつけました。江戸時代終わりごろに、片井京助という優秀な鉄砲師がおり、連発銃などをつくりました。



片井京助作「四挺附鉄砲」

町人の町見どころスポット

〈馬喰町・伊勢町〉

今度は、松代文化財ボランティアの会
おすすめの町人の町の見どころを紹介します



詳しい場所は
後ろの②④
ページ「松代
今昔マップ」
を見てね♪

1 離山

小高い場所でお城の様子が見えることから、むやみに上ることが禁じられていました。江戸時代中ごろにおきた戌の満水と呼ばれる大洪水の時は、多くの人がここに登って避難し、命が助かりました。



今の離山



江戸時代の離山を描いた図
「海津城地明細絵図」(個人蔵)

2 中央橋 (思案橋)

江戸時代には、関屋川が流れていて、家や橋などを作る材木を上流から流しこの近くで引き上げていました。このあたりは木町と呼ばれ、ここに架けられていた橋は中央橋と呼ばれていました。



「松代天王祭絵巻」



3 祝神社

町人のまもり神として境内には、諏訪大社、伊勢社、恵比寿社、猿田彦社、宗方社などが祀られています。



4 八田家

藩の御用商人でたくさんのお金を藩に貸し財政を助け、町年寄りという重要な町役をつとめていました。道沿いから家並みが見られます。

5 大坂屋菓子店

大坂屋磯右衛門が江戸で修業し、江戸時代中ごろにここに菓子屋を開き繁盛しました。今では土産物屋を営んでいますが、「大坂屋」の看板とらくがんの木型が店に飾ってあります。

大坂屋



6 蓮乗寺七面さん
くわしくは、21ページの
コラムを見てね。



町人の町見どころスポット

〈鍛冶町・中町・荒神町〉

11 大石大明神
くわしくは、22ページ
のコラムを見てね。

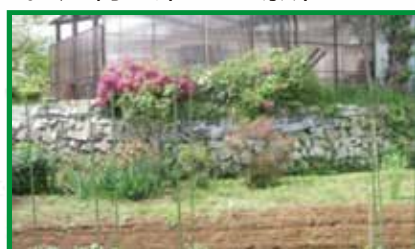
7 松下家

紺屋町から移ってきた染物屋の松下家が今でも残っています。



9 千曲川通船船着場跡

千曲川通船は、江戸時代に川船で越後国（今の新潟県）から塩や海産物を運んだり、松代の産物を越後国に運んだりしました。松代藩は千曲川から荒神町まで運河をつくって船をひき入れました。産物が集まる場所としてにぎわったことでしょう。



船着場だったといわれる石垣が今も残っています。



8 天王祭（祇園祭）の仮屋が置かれる場所

松代の天王祭（祇園祭）は古くから続く「商売繁盛」「疫病退散」を願うお祭りで、江戸時代には多くの町人が参加し、殿様や武士の他、松代以外からも大勢の見物人が集まりました。松代町東条の玉依比売命神社のお天王さん※を町内に迎えて行われるお祭りで、中町信号近くにお天王さんの仮屋が置かれます。

※ここでは、疫病をつかさどるスサノオ神のこと。

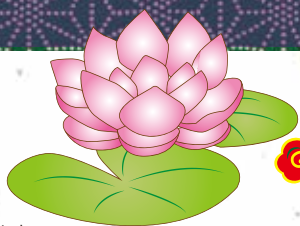


「松代天王祭絵巻」

10 荒神堂

荒神堂には三宝荒神が祀られていて、お堂には亀や龍、菊などの立派な彫り物があります。子育て地蔵や延命地蔵なども祀られており、今でも地元の人たちに大切にされ5月には八十八夜祭が行われています。





コラム 「町人の町の、こどもたちが楽しんだ縁日と不思議な石」

七面さんの縁日

御安町の蓮乗寺にある「七面堂」には、日蓮宗の守り神である七面大菩薩（七面天女）が祀られ、七面さんと呼ばれ親しまれています。

毎年 8 月には近くに住む人々が大勢集まり、七面さんの縁日がひらかれ、たくさんの出店が出て、提灯がにぎやかにかざられ、多くの人や子どもたちでにぎわいました。



今は様々な理由で縁日は行われていませんが、七面さんは今でも大切に祀られています。

「七面さん」のお話

昔、日蓮聖人※というお坊さんが身延山で説法をしている時に、美しい女の人が熱心に聞いているのに気づいた聖人が声をかけたところ、「水が欲しい」と言いました。水を受け取り手にひとしずく落とすとたちまち龍に変身。再び美しい女の人に戻ると、「法華経※を信仰する人々を守ります」と言い、七面山に姿を消しました。

蓮乗寺に祀られている七面さんが右手に持っている鍵は私たちの幸せの扉を開くもの、左手の如意宝珠は様々な願いをかなえさせる力を秘めていると言われています。

※日蓮聖人…鎌倉時代のお坊さん ※法華経…日蓮聖人が信仰の対象としたお経。

不思議な石の正体は？

荒神町の道路沿いに、大きな石が祀られています。この石は町の人々から「大石大明神」と呼ばれています。



「大石大明神」のお話

昔、山からこの大きな石をお城に運ぼうとしましたがここで動かなくなり、腹をたてた若者が小便をかけたところ、目が見えなくなり、こまっていたいました。

夢枕に立ったお坊さんから「毎日お茶をあげなさい」と言われたのでその通りにすると、目が見えるようになり、いつしか大石は目の神様として人々から信仰を集めるようになりました。

今も春と秋にお祭りが行われています。



松代の今

今の長野市松代町の地図です。
真田 10 万石の城下町松代をもとに発展してきました。

南 北



地図の向きが
横向きになっ
ているよ。

- 1~8 は9~12ページの
武士の町の見どころ
スポット
- 1~11 は17~20ページの
町人の町の見どころ
スポット
- は13ページの
ねこ面がわらの場所

どい 土居 (惣構) の一部が残っています



今ものこる文化財に歴史の足あとを感じ、いろいろと想像して、真田 10 万石の城下町松代を楽しんでね。

※この地図は、「地理院地図」をもとにして作成しました。

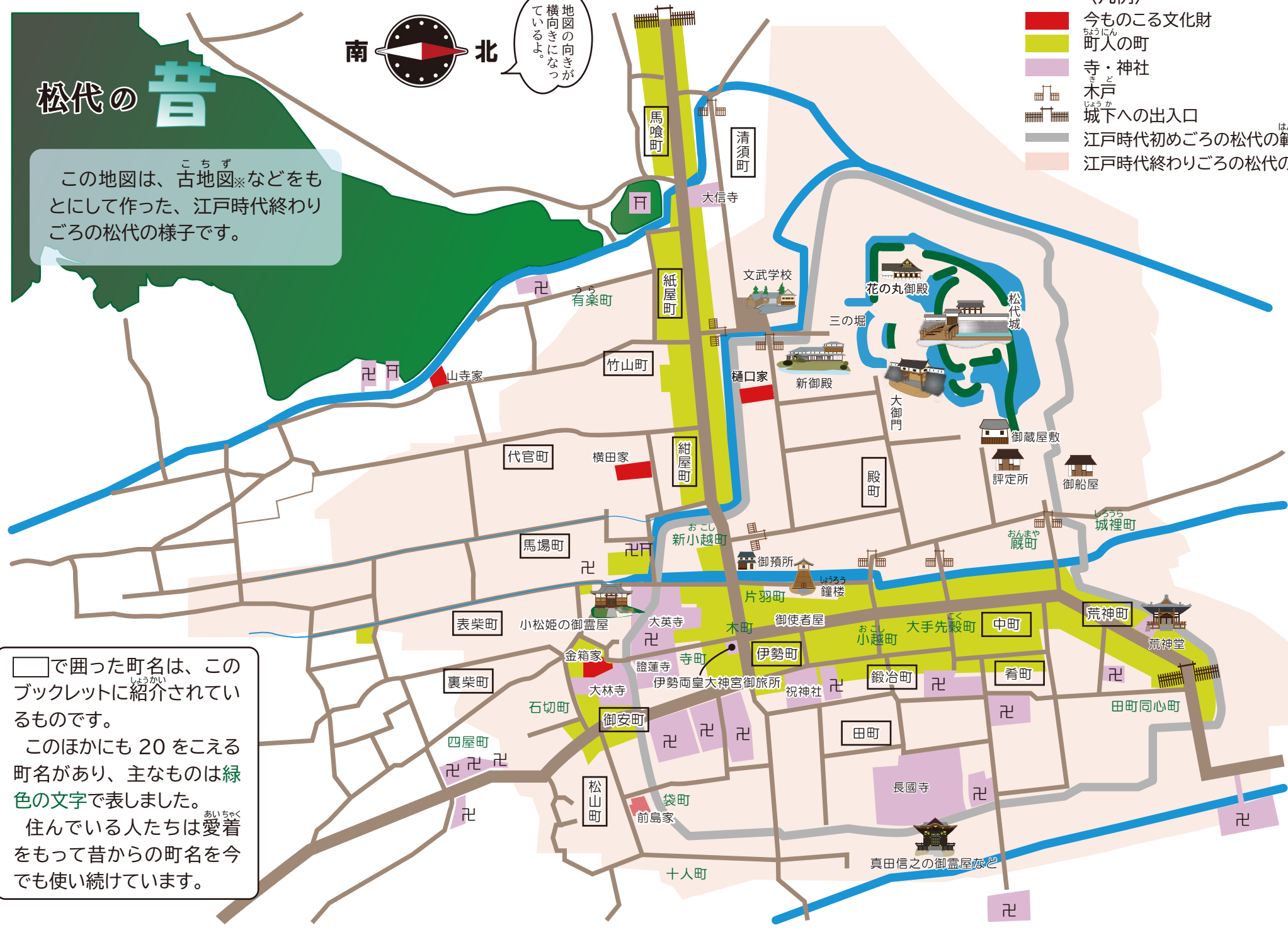
松代の昔

この地図は、古地図※などをもとにして作った、江戸時代終わりの松代の様子です。



地図の向きが横向きになっているよ。

- 〈凡例〉
- 今ものこる文化財
 - 町人の町
 - 寺・神社
 - 木戸
 - 城下への出入口
 - 江戸時代初めごろの松代の範囲
 - 江戸時代終わりごろの松代の範囲



□で囲った町名は、このブックレットに紹介されているものです。

このほかにも 20 をこえる町名があり、主なものは緑色の文字で表しました。

住んでいる人たちは愛着をもって昔からの町名を今でも使い続けています。

※松代城下図（慶応四年）、海津城絵図（廃藩当時）などをもとに作成

まち歩きをするときの約束

- おうちの方に、かならず行き先を伝えてから出発しよう。
- 暑いときには帽子や水筒ぼうし すいとうをもっていこう。
- お寺の中に入る時にはお寺の人にことわってから静かに見学しよう。
- 公開されているところをのぞき、建物には今でも住んでいる人がいるので入らないようにしましょう。迷惑めいわくにならないように、静かに外から見学しよう。
- 車の通りがはげしい場所じゅうぶんは、十分に注意しよう。



松代へのアクセス案内



〈企画制作〉

松代文化財ボランティアの会

徳嵩雄司 若林忠克 岩佐哲男 野沢昌子 犬飼かずみ
眞島俊光 半田祐子 東條時男 宮本銀二郎
山下光男 大澤富士夫 宮澤邦典 北澤茂子 清水静代
山岸園子 中澤澄人 下平恵一 野口公信 (順不同)

〈イラスト〉 山下光男 山口まゆみ 溝辺いずみ

※無断転載を禁じます。



めいじ 631 ーとりい
明治時代初めころの祝神社の鳥居

今はこの鳥居は新しくされ、祝神社の入口にあります。鳥居があったことからこの通路は「鳥居小路」と呼ばれています。

(写真:中村郁夫氏蔵)

こども松代見て歩き
～城下町松代の今とむかし～
2022年3月発行

松代文化施設等管理事務所（真田宝物館）

〒381-1231 長野市松代町松代4-1

TEL026-278-2801

HP <https://www.sanadahoumotsukan.com>